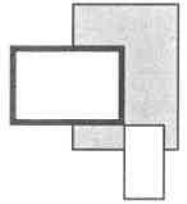




Matsuyama
Business
College

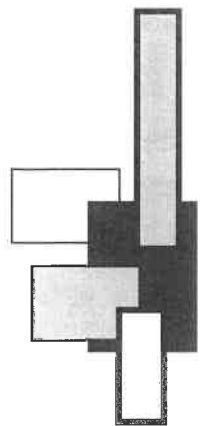
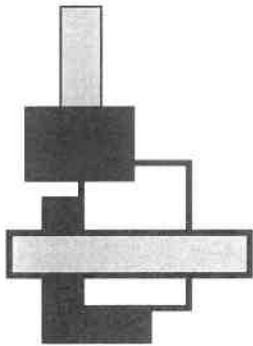


松山デザイナー専門学校

ファッションビジネス学科

2025 年度

シラバス



ショップマスターコース 2年

名前

※一年間、各自保管すること

令和7年度

服飾家政専門課程 ファッションビジネス学科 ショップマスターコース

必修 / 選択		区分	科目名	種別	担当者	ショップマスターコース 2年		
						前期	後期	単位
必修	学科 共通		ファッション販売実技Ⅰ	実習	稲美	30		1
			英会話Ⅰ	講義	宇野	30		2
			ファッションプロデュースⅠ	実習	木村	60		2
			ショップマスターⅢ	講義	竹松	30		2
			ファッションビジネスⅢ	講義	竹松	30		2
			アイテム制作実習Ⅰ	実習	木村	60		2
			ファッション販売実技Ⅱ	実習	稲美		30	1
			英会話Ⅱ	講義	宇野		30	2
			ファッションプロデュースⅡ	実習	木村		60	2
			ショップマスターⅣ	講義	竹松		30	2
			アイテム制作実習Ⅱ	実習	木村		90	3
			研修	実習	教員		30	1
	コース		マーケティングⅡ	講義	大方	30		2
			店舗実習Ⅱ	実習	-	60		2
			ブランド企画Ⅲ	実習	秋山	60		2
			ネットビジネスⅠ	講義	瀧川	30		2
			ファッションビジネスⅣ	講義	竹松		30	2
			ブランド企画Ⅳ	実習	秋山		60	2
			ネットビジネスⅡ	講義	竹松		30	2
						420	390	36
必修科目 合計						810		
年間合計時間/単位数						810		36

1 講義は15～30時間を1単位とし、実習は30～45時間を1単位とする。

授業科目	ファッション販売実技Ⅰ	時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	1
担当教員 (資格等)	稲美 妙乃	時間割	時間割参照	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・コース・学年)	ファッションビジネス学科 2年
授業科目の テーマと目的	コミュニケーション力と判断力を学ぶ				
学習到達 目標	現場で通用する知識・技術を習得する				
担当教員の 授業に関わる 実務経験	☒ 有 ☐ 無	【実務経験内容】 スタイリスト・Shopオーナーとして経験のある講師が、その経験を活かしコーディネート技術や接客やプレゼン法を指導する			
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度				
1	概論	これからの心構えと抱負			
2	ラッピング	ラッピングの必要性和実践			
3	値札制作	ブランドイメージにあう値札作り			
4	ショップ袋制作	ブランドイメージにあうショップ袋デザイン、その効果			
5		デザイン			
6		制作			
7	美術、芸術鑑賞	美術館鑑賞、美術館での所作、注意点、レポート作成			
8					
9					
10	スチームアイロン	洋服の扱い方を振り返って実践			
11	接客ロープレ	接客の必要性(応用編)、アプローチ法			
12		レポート作成			
13	現場見学	計画書作成			
14		実践(グランフジ)、レポート作成			
15	まとめ	まとめ			
使用テキスト 教材・教具					
参考図書 参考文献					
成績評価の 方法・基準	作品100%で評価する				
履修上の 留意点			検定試験の 概要		
備考	各自ノート、ファイルを準備する				

授業科目	英会話 I	時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	宇野 恵美子	時間割	木曜 3限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・コース・学年)	ファッションビジネス学科 2年
授業科目の テーマと目的	海外からのお客様や、日本在住の外国人のお客様に英語で接客するために、販売員として必要な基本的な英会話を修得する				
学習到達 目標	英語での店内案内や基本的な商品説明、挨拶や日常会話を円滑に進めるための表現を学ぶ。また、緊急時やトラブルに対応するフレーズを学ぶ				
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☐ 有 ☒ 無 【実務経験内容】				
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度				
1	レベルチェック、自己紹介	英語レベルの確認と、挨拶・自己紹介・日常会話など気軽な会話を楽しむ			
2	役立つフレーズ	聞き取れない・わからないときや、謝罪のときに使えるフレーズを学ぶ			
3	役立つ表現	相槌や感謝など、お客様に対する細やかな表現を学ぶ			
4	雑談の会話	お客様との距離を縮めるための話題に関する表現を学ぶ			
5	接客①	お客様を迎える際の表現と、営業時間や店内の案内に関する表現を学ぶ			
6	接客②	電話対応に必要な表現を学ぶ			
7	接客③	お客様を見送る際の表現を学ぶ			
8	接客④	お客様の購買意欲をそそる表現と、在庫切れの際の対応を学ぶ			
9	接客⑤	値段交渉と包装に関する表現を学ぶ			
10	接客①～⑤	接客①～⑤の復習とアウトプット・ロールプレイング練習			
11	接客⑥	返品や交換の際に役立つ表現を学ぶ			
12	接客⑦	デザインやサイズ、素材や色などの好みを聞く際と、お手入れの方法を説明する表現を学ぶ			
13	接客⑧	試着に関する表現と、試着後のほめ方のフレーズを学ぶ			
14	緊急時対応	急病人対応と、地震や火災時の緊急対応の表現を学ぶ			
15	前期終了テスト	前期内容について確認			
使用テキスト 教材・教具	『すぐに使える接客英会話 大特訓』Jリサーチ出版(ISBN:9784863922037)				
参考図書 参考文献					
成績評価の 方法・基準	小テスト50%、修了テスト50%で評価する				
履修上の 留意点			検定試験の 概要		
備考	ロールプレイングに積極的に参加すること				

授業科目	ファッションプロデュース I			時間数 (コマ数)	60 (30)	単位数	2
担当教員 (資格等)	木村 蘭			時間割	時間割参照	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・コース・学年)	ファッションビジネス学科 2年		
授業科目の テーマと目的	ルックブックの企画から衣装集め、撮影、ポスター告知までの流れを学ぶ						
学習到達 目標	ルックブック・ポスター制作する						
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☒ 有 ☐ 無	【実務経験内容】 販売の経験がある講師が、その経験を活かしコーディネート技術を指導する					
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度						
1～2	概論	ルックブックからポスター告知までの流れ					
3～6	ルックブック	ページ編成					
7～8		撮影準備(衣装・小物集め)					
9～14		撮影					
15～19		写真編集(コラージュ・切り抜き)、プレゼン準備					
20～21		プレゼン、ポスターチーム分け					
22～23	ポスター	ポスター構成決める					
24～27		制作・プレゼン					
28～29		ディスプレイ(投票用)					
30		まとめ					
使用テキスト 教材・教具	ルックブック印刷代						
参考図書 参考文献							
成績評価の 方法・基準	課題30%、作品70%で評価する						
履修上の 留意点	授業内容により、私服を準備する場合がある			検定試験の 概要			
備考	各自ノートを持参する						

授業科目	ショッピングマスターⅢ		時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	竹松 容子		時間割	時間割参照	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・コース・学年)	ファッションビジネス学科 2年	
授業科目の テーマと目的	VMD計画を行い魅力的な売り場を作る					
学習到達 目標	VMD計画を行い魅力的な売り場を作る事が出来る					
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☒ 有 ☐ 無	【実務経験内容】 ショップスタッフ、店長の経験を活かし、学生に指導する				
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度					
1	市場の変化とVMD		VMD戦略とは			
2	店舗コンセプトとVMD		売場機能と訴求ポイント			
3	〃		売場の什器計画			
4	VMD計画		販売促進計画と売場展開			
5	〃		POPの役割と種類 ユニバーサルデザイン事例			
6～7	商品陳列について		三角構成 PP・IPの商品陳列			
8～9	〃		VPとPPで展開する演出方法 色彩と照明			
10	商品分類と売場構成		商品分類と陳列(レディース メンズ)			
11～12	売場の再編集		陳列の再編集技術			
13～14	業態別VMD特徴		VMDのオペレーション説明 VMD計画書作成			
15	まとめ		VMD計画書作成 まとめ			
使用テキスト 教材・教具	『ファッション販売能力検定2級公式テキスト』一般財団法人 日本ファッション教育振興協会					
参考図書 参考文献						
成績評価の 方法・基準	ノート20% 課題80%で評価する					
履修上の 留意点			検定試験の 概要			
備考						

授業科目	ファッションビジネスⅢ			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	竹松 容子			時間割	時間割参照	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・コース・学年)	ファッションビジネス学科 2年		
授業科目の テーマと目的	ファッションビジネス能力検定2級テキストを進めながらファッション業界の基礎知識を習得する						
学習到達 目標	ファッションビジネス能力検定2級合格						
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☒ 有 ☐ 無	【実務経験内容】 ショップスタッフ、店長の経験を活かし、学生に指導する					
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度						
1	2級テキスト 造形1章		テキスト学習後、過去問を解き、結果をもとに解説を行う				
2	2級テキスト 造形2章		テキスト学習後、過去問を解き、結果をもとに解説を行う				
3	2級テキスト 造形3章		テキスト学習後、過去問を解き、結果をもとに解説を行う				
4	2級テキスト 造形4章		テキスト学習後、過去問を解き、結果をもとに解説を行う				
5	2級テキスト 造形5章		テキスト学習後、過去問を解き、結果をもとに解説を行う				
6	2級テキスト 造形6章		テキスト学習後、過去問を解き、結果をもとに解説を行う				
7	検定直前対策①		過去に解いた過去問の結果をもとに、各自正答率の低い分野を集中的に復習し、再度その分野の過去問を解き、解説を行う				
8	検定直前対策②		過去に解いた過去問の結果をもとに、各自正答率の低い分野を集中的に復習し、再度その分野の過去問を解き、解説を行う				
9	検定直前対策③		過去に解いた過去問の結果をもとに、各自正答率の低い分野を集中的に復習し、再度その分野の過去問を解き、解説を行う				
10	検定直前対策④		過去に解いた過去問の結果をもとに、各自正答率の低い分野を集中的に復習し、再度その分野の過去問を解き、解説を行う				
11	検定直前対策⑤		過去に解いた過去問の結果をもとに、各自正答率の低い分野を集中的に復習し、再度その分野の過去問を解き、解説を行う				
12	検定直前対策⑥		過去に解いた過去問の結果をもとに、各自正答率の低い分野を集中的に復習し、再度その分野の過去問を解き、解説を行う				
13	検定直前対策⑦		過去に解いた過去問の結果をもとに、各自正答率の低い分野を集中的に復習し、再度その分野の過去問を解き、解説を行う				
14	検定直前対策⑧		過去に解いた過去問の結果をもとに、各自正答率の低い分野を集中的に復習し、再度その分野の過去問を解き、解説を行う				
15	検定直前対策⑧		過去に解いた過去問の結果をもとに、各自正答率の低い分野を集中的に復習し、再度その分野の過去問を解き、解説を行う ※修了テスト				
使用テキスト 教材・教具	『ファッションビジネス2級新版』日本ファッション教育振興協会 『FB能力検定試験2級項目別試験問題・解答集』日本ファッション教育振興協会						
参考図書 参考文献							
成績評価の 方法・基準	小テスト30%、修了テスト70%で評価する						
履修上の 留意点				検定試験の 概要	ファッションビジネス能力検定2級 2025年7月5日(土)		
備考							

授業科目	アイテム制作実習Ⅰ			時間数 (コマ数)	60 (30)	単位数	2
担当教員 (資格等)	木村 蘭			時間割	時間割参照	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・コース・学年)	ファッションビジネス学科 2年		
授業科目の テーマと目的	アパレルアイテムの制作・コーディネート法を学ぶ						
学習到達 目標	現場で通用するアイテムのリメイク法を習得する						
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☐ 有 ☒ 無	【実務経験内容】					
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度						
1～2	染め	洋服染め、染料について					
3～8		洋服や小物を染める					
9～10	リメイク	リメイク法、刺繍					
10～14		染めたアイテムをリメイクする					
15	アイテム制作	スタイリングショー(学園祭)プレゼン					
16～30		スタイリングショー(学園祭)制作					
使用テキスト 教材・教具	洋裁道具、染料道具、刺繍道具						
参考図書 参考文献							
成績評価の 方法・基準	ノート20%、課題20%、作品60%で評価する						
履修上の 留意点				検定試験の 概要			
備考	制作に関わる服・生地・糸・副資材は自己負担 各自ノートを準備する						

授業科目	ファッション販売実技Ⅱ		時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	1
担当教員 (資格等)	稲美 妙乃		時間割	時間割参照	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・コース・学年)	ファッションビジネス学科 2年	
授業科目の テーマと目的	コミュニケーション力と判断力を学ぶ					
学習到達 目標	現場で通用する知識・技術を習得する					
担当教員の 授業に関わる 実務経験	☒ 有 ☐ 無	【実務経験内容】 スタイリスト・Shopオーナーとして経験のある講師が、その経験を活かしコーディネート技術や接客やプレゼン法を指導する				
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度					
1	接客ロープレ	新教室でのロープレ				
2						
3	ディスプレイ実習	新教室でのレイアウトディスプレイ				
4		レポート作成				
5	モデルPR法	テーマ決め、準備				
6		撮影				
7	接客ロープレ	試着の意味、声かけのタイミング				
8		フィッティング案内				
9	現場見学	計画書作成				
10		実践(エミフル松前)、レポート作成				
11	販売実技	不得意分野の接客克服法 コーディネートから試着の案内法				
12						
13		就職前の最終接客ロープレ				
14		実技テスト				
15	まとめ	まとめ				
使用テキスト 教材・教具						
参考図書 参考文献						
成績評価の 方法・基準	作品50%、実技テスト50%で評価する					
履修上の 留意点				検定試験の 概要		
備考	各自ノート、ファイルを準備する					

授業科目	英会話Ⅱ	時間数 (コマ数)	30. (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	宇野 恵美子	時間割	木曜 3限	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・コース・学年)	ファッションビジネス学科 2年
授業科目の テーマと目的	海外からのお客様や、日本在住の外国人のお客様に英語で接客するために、販売員として必要な基本的な英会話を習得する				
学習到達 目標	英語での店内案内や基本的な商品説明、挨拶や日常会話を円滑に進めるための表現と、緊急時やトラブルに対応するフレーズを身に付ける				
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☐ 有 ☒ 無	【実務経験内容】			
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度				
1	前期の復習	前期で学んだ語彙やフレーズを復習する			
2	店内で使う基本表現①	接客で用いる基本的な語彙とフレーズを学ぶ			
3	店内で使う基本表現②	店内で使用するモノや場所の語彙を学ぶ			
4	店内で使う基本表現③	店内で使用するモノや場所の語彙と、想定される店内応対に関する表現を学ぶ			
5	接客①	お迎え入れ→アプローチ→商品選択までの流れについての表現を身に付ける			
6	接客②	商品を選択する際に必要な表現と在庫確認について説明する際の表現を身に付ける			
7	接客③	欠品と取り寄せについての説明と、他の商品をお勧めする際の表現を身に付ける			
8	接客④	試着対応と褒め言葉、寸法直しについての表現を身に付ける			
9	接客⑤	クローゼット・会計の流れと、その応対についての表現を身に付ける			
10	接客⑥	お見送りの際の声掛けについてのフレーズを身に付ける。数字の表現について学ぶ			
11	接客①～⑥ アウトプット(1)	一通りの流れをシュミレーション練習し、定着させる			
12	接客①～⑥ アウトプット(2)	更に応用できるよう、アクタウト練習を行う			
13	緊急時対応	急病人対応と、地震や火災時の緊急対応の表現を身に付ける			
14	レッスン1～13総復習	レッスン1～13の復習とアウトプット			
15	後期終了テスト	後期内容について確認			
使用テキスト 教材・教具	『すぐに使える接客英会話 大特訓』Jリサーチ出版(ISBN: 9784863922037)				
参考図書 参考文献					
成績評価の 方法・基準	小テスト50%、修了テスト50%で評価する				
履修上の 留意点			検定試験の 概要		
備考	ロールプレイングに積極的に参加すること				

授業科目	ファッションプロデュースⅡ			時間数 (コマ数)	60 (30)	単位数	2
担当教員 (資格等)	木村 蘭			時間割	時間割参照	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・コース・学年)	ファッションビジネス学科 2年		
授業科目の テーマと目的	役者の人柄、深層心理を紐解きスタイリングする						
学習到達 目標	映画のポスターを制作する						
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☒ 有 ☐ 無	【実務経験内容】 販売の経験がある講師が、その経験を活かしコーディネート技術を指導する					
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度						
1	概論	役者の深層心理と衣装					
2～6	研究、プレゼン	映画の衣装をスタイリングし、プレゼン					
7	衣装提案書	衣装提案書の作成方法					
8～9		衣装提案書の作成					
10	衣装集め	衣装の集め方					
11～14	広告制作	ペアを組んで与えられたテーマをもとに、衣装提案書作成から衣装決め					
15～23		撮影、編集					
24～27		ポスター制作					
28～30		プレゼン					
使用テキスト 教材・教具							
参考図書 参考文献							
成績評価の 方法・基準	課題30%、作品70%で評価する						
履修上の 留意点	授業内容により、私服を準備する場合がある			検定試験の 概要			
備考	各自ノートを持参する						

授業科目	ショップマスターⅣ	時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	竹松 容子	時間割	時間割参照	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・コース・学年)	ファッションビジネス学科 2年
授業科目の テーマと目的	具体的な店舗運営の際に必要な内容を項目ごとに学ぶ				
学習到達 目標	店舗運営管理が出来るスキルを身につける				
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☒ 有 ☐ 無	【実務経験内容】 ショップスタッフ、店長の経験を活かし、学生に指導する			
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度				
1～2	実店舗の意味合い	実際の実店舗の現状			
3～4	〃	VMDで伝えたい事			
5～6	〃	実店舗リサーチ(外観印象・店内アプローチ)			
7	〃	リサーチ結果からVMDを含めた店内のレイアウトイメージを作成			
8～9	プレゼンテーション①	店舗イメージを発表			
10	〃	店舗の予算と個人予算について			
11	店舗の人事管理	スケジュール管理 人事管理関の関連法規			
12	〃	人材育成 コンプライアンス			
13～14	プレゼンテーション②	VMD計画書作成 (前期よりも精度を上げる)			
15	〃	プレゼンテーション 総評			
使用テキスト 教材・教具	『ファッション販売能力検定2級公式テキスト』一般財団法人 日本ファッション教育振興協会				
参考図書 参考文献					
成績評価の 方法・基準	プレゼンテーション2回60% VMD計画書作成40%で評価する				
履修上の 留意点			検定試験の 概要		
備考					

授業科目	アイテム制作実習Ⅱ			時間数 (コマ数)	90 (45)	単位数	3
担当教員 (資格等)	木村 蘭			時間割	時間割参照	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・コース・学年)	ファッションビジネス学科 2年		
授業科目の テーマと目的	アパレルアイテムの制作・コーディネート法を学ぶ						
学習到達 目標	現場で通用するアイテムのリメイク法を習得する						
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☐ 有 ☒ 無	【実務経験内容】					
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度						
1～2	アイテム制作		スタイリングショー(松山コレクション)プレゼン				
3～28			スタイリングショー(松山コレクション)制作				
29～30			完成プレゼン資料・まとめ				
使用テキスト 教材・教具	洋裁道具、染料道具、刺繍道具						
参考図書 参考文献							
成績評価の 方法・基準	課題20%、作品80%で評価する						
履修上の 留意点				検定試験の 概要			
備考	制作に関わる服・生地・糸・副資材は自己負担 各自ノートを準備する。						

授業科目	研修			時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	1
担当教員 (資格等)	教員			時間割	時間割参照	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・コース・学年)	ファッションクリエイター学科 2年 ファッションビジネス学科 2年		
授業科目の テーマと目的	トレンド発信の早い韓国で、韓国ファッションの勉強、及び、ファッションショー作品に使用する生地 や副資材の購入を行う						
学習到達 目標	イメージを具体化する、かつ数値の予定と併せた仕入れ業務を行う						
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☐ 有 ☒ 無		【実務経験内容】				
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度						
1～2	事前準備		韓国トレンド、市場について				
3～14	研修		韓国資材購入				
15	研修まとめ		レポート				
使用テキスト 教材・教具							
参考図書 参考文献							
成績評価の 方法・基準	レポート100%で評価する						
履修上の 留意点				検定試験の 概要			
備考							

授業科目	マーケティングⅡ	時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	大方 和則	時間割	木曜2限	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・コース・学年)	シヨップマスターコース2年
授業科目の テーマと目的	一年次のマーケティングの知識を発展させ、ファッションの新しいビジネスを企画し、多角化するアパレル企業の現状が理解できる				
学習到達 目標	FBアワードへの応募を通しその企画立案を通して多角化するアパレル企業の現状が理解できる				
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☒ 有 ☐ 無 【実務経験内容】 シヨップスタッフ、店長、バイヤー・マネージャーなどの経験を活かし、学生に指導する				
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度				
1	FBアワードの概要		コンテストの概要と目的を理解する		
2	企画立案①		新しいビジネスを探す ①		
3	企画立案②		新しいビジネスを探す ②		
4	企画立案③		新しいビジネスを決定しタイトルを決める		
5	企画立案④		ビジネスイメージ図を作成する		
6	企画立案⑤		ターゲットを調査する		
7	企画立案⑥		実現性を調査する		
8	企画立案⑦		提供する商品・サービスをまとめる		
9	企画立案⑧		競合についてまとめる		
10	企画立案⑨		競合に対しての差別化・独自化ポイントをまとめる		
11	企画立案⑩		収支計画 ①		
12	企画立案⑪		収支計画 ②		
13	企画立案⑫		収支計画 ③		
14	企画立案⑬		プレゼンテーション		
15	企画立案⑭		総論		
使用テキスト 教材・教具	パソコン必須				
参考図書 参考文献					
成績評価の 方法・基準	課題を100%で評価する				
履修上の 留意点	企画書を積み重ねていくので出席の意識を強く持つこと		検定試験の概要		
備考	基本的にオンライン授業になる為、PCとイヤホンを持参				

授業科目	店舗実習Ⅱ			時間数 (コマ数)	60 (30)	単位数	2
担当教員 (資格等)	—			時間割	時間割参照	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・コース・学年)	ショップマスターコース2年		
授業科目の テーマと目的	店舗での実践教育を通じて、必要な知識や技術の習得						
学習到達 目標	各店舗での様々な業務を経験するとともに、コミュニケーション能力を身につける						
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☒ 有 ☐ 無	【実務経験内容】 各店舗実習先で実際に業務に携わっている者が指導する					
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度						
1	実習の心得		接客技術とスタッフの仕事について				
2	店舗リサーチ、準備		各店舗のリサーチとプレゼンテーション 履歴書作成等実習準備				
3～27	店舗実習		各店舗において職業体験、まとめ				
28	実習まとめ		面談・お礼状・報告書作成				
29	実習まとめ		報告会・意見交換				
30	実習まとめ		ポートフォリオ作成・報告会・意見交換				
使用テキスト 教材・教具							
参考図書 参考文献							
成績評価の 方法・基準	各店舗からの評価結果60% ポートフォリオの作成と発表40%で評価する						
履修上の 留意点				検定試験の 概要			
備考							

授業科目	ブランド企画Ⅲ			時間数 (コマ数)	60 (30)	単位数	2
担当教員 (資格等)	秋山 譲司			時間割	時間割参照	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・コース・学年)	シヨップマスターコース 2年		
授業科目の テーマと目的	ブランド企画Ⅱで作成した概要を元にSHOPのプランニングを行う						
学習到達 目標	SHOPの運営に必要な計数管理と流通経路を理解する						
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☒ 有 ☐ 無	【実務経験内容】 商品MDの実務経験を活かし、学生に指導する					
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度						
1	ブランド→SHOP運営へ		ブランドとSHOPの違いを考察				
2～3	SHOPコンセプトメイキング		ブランドを表現する場＝SHOPを考える				
4～5	SHOPコンセプトメイキング		SHOPに必要なコンテンツを考える				
6～7	SHOPコンセプトメイキング		ブランド＋コンテンツを含めたSHOPコンセプトを考える				
8～9	SHOP物件、概要		物件、内装、費用を考える				
10	SHOP物件、概要		計画を数値化				
11	バイイング		仕入れの考え方と流通				
12	バイイング		予算の作成と店頭の販売、消化				
13～20	バイイング実習		アパレル倉庫にて仕入～入荷～荷捌き～検品～振分～出荷～店頭				
21	バイイング実習レポート		レポート提出				
22～23	PR活動		SHOPのプレスリリース作成				
24	PR活動		SHOPのイベントを企画				
25～26	SHOP VMD作成		SHOPのコーディネートを考えVMD作成				
27～29	ブランド概要プレゼン		プレゼンシート作成				
30	ブランド概要発表		プレゼン				
使用テキスト 教材・教具	スライド、配布資料、各自PCを使い資料作成						
参考図書 参考文献							
成績評価の 方法・基準	コンセプト作成10%、物件概要10%、バイイング計画10%、バイイング実習20%、レポート10%、PR10%、VMD10%、プレゼン20%で評価する						
履修上の 留意点	各項目毎に採点の為要出席			検定試験の 概要			
備考	バイイング実習は実費負担 オンライン授業時は、PCとイヤホンを持参する						

授業科目	ネットビジネスⅠ	時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	瀧川 倫太	時間割	時間割参照	開講期	前期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・コース・学年)	ショッピングマスターコース 2年
授業科目の テーマと 目的	ネット上で公開されているWebページを検証し、現在の「はやりのレイアウト」を掴む技法を学習。そのデザインを選択した意図や技術的な進歩がデザインに与える影響など、背景にある要因を読み取るための手法を学ぶ				
学習到達 目標	クライアントニーズとユーザーニーズに対し、「見た目のトレンド」「技術的なトレンド」「競合分析」など他角度的に分析しサイト制作に落とし込める知識を身につけるようになる				
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☒ 有 ☐ 無 【実務経験内容】 ECサイトの運用、コーポレートサイト等のディレクションからリリースまでのワンストップ制作の実務経験を活かし、学生に指導する				
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度				
1	Webサイトの歴史	Webサイトのデザインや役割における変化の歴史			
2	Webサイトの種類	サイトの種類とそれぞれの役割 ※小テスト			
3	業種ごとのトレンド遍歴	業界や業種ごとのWebにおけるトレンドの変化 ※小テスト			
4	参考サイトの探し方	Webサイトの運用とSEOについて			
5～6	デザイントレンドの探し方	デザインにおけるトレンドの探し方			
7～8	第1回分析レポート発表会	事前テーマを元にまとめたレポートを各自発表する ※レポート			
9	技術的トレンドの探し方	Webにおける技術的なトレンドの探し方 ※小テスト			
10	既存サイトの改善分析	対象となるサイトの問題点の洗い出し方と改善案 ※小テスト			
11～12	第2回分析レポート発表会	事前テーマを元にまとめたレポートを各自に発表してもらう ※レポート			
13	改善事例の考察	リニューアル後の改善事例の考察			
14～15	第3回分析レポート発表会	事前テーマを元にまとめたレポートを各自に発表してもらう ※レポート			
使用テキスト 教材・教具	オリジナルデータ教材、スライド				
参考図書 参考文献					
成績評価の 方法・基準	小テスト30%、レポート発表内容70%で評価する				
履修上の 留意点		検定試験の 概要			
備考					

授業科目	ファッションビジネスⅣ	時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	竹松 容子	時間割	時間割参照	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・コース・学年)	シヨップマスターコース2年
授業科目の テーマと目的	アイテム分析を行い、VMDの最新トレンドを紐解く				
学習到達 目標	トレンド分析が出来、且つプレゼンテーションが行える事				
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☒ 有 ☐ 無	【実務経験内容】 シヨップスタッフ、店長の経験を活かし、学生に指導する			
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度				
1	概要	トレンドについて			
2	アイテム分析	コート			
3	〃	ジャケット			
4	〃	スカート			
5	〃	パンツ			
6	〃	ニット・ブラウス			
7	〃	フォーマルウェア・ジュエリー			
8	〃	雑貨			
9	〃	VMD最新トレンドについて			
10	〃	事前準備(ブランド抽出)			
11～12	高島屋リサーチ	リサーチ実践			
13	〃	リサーチ結果分析 プレゼンテーション資料作成①			
14	〃	リサーチ結果分析 プレゼンテーション資料作成②			
15	プレゼンテーション	質疑応答とフィードバック			
使用テキスト 教材・教具	『ファッションビジネス2級新版』日本ファッション教育振興協会				
参考図書 参考文献					
成績評価の 方法・基準	プレゼンテーション100%で評価する				
履修上の 留意点			検定試験の 概要		
備考					

授業科目	ブランド企画Ⅳ			時間数 (コマ数)	60 (30)	単位数	2
担当教員 (資格等)	秋山 譲司			時間割	時間割参照	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	実習	履修対象者 (学科・コース・学年)	ショッピングマスターコース 2年		
授業科目の テーマと目的	2年間の集大成としてPOP UP SHOPの運営を体験する実習を行う						
学習到達 目標	POP UPの企画、準備、運営を行う						
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☒ 有 ☐ 無	【実務経験内容】 商品MDの実務経験を活かし、学生に指導する					
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度						
1～2	POP UPのテーマ作成		POP UPのテーマを考えてコンセプトをまとめる				
3	概要作成		概要をまとめる				
4	プレスリリース作成		概要を元にプレスリリース作成→PR活動				
5～9	商品調達方法検討		商品調達計画作成～調達				
10～17	準備物調達、予算作成		装飾、備品、VMD、ツール作成→予算化				
18～20	準備		設営				
21～28	当日運営		POP UP店頭販売				
29～30	レポート作成		レポート提出、松コレ用プレゼン作成				
使用テキスト 教材・教具	スライドで解説、各自PCにて運営計画等作成						
参考図書 参考文献							
成績評価の 方法・基準	コンセプト20%、プレスリリース15%、ツール作成15%、店頭実習30%、レポート20%で評価する						
履修上の 留意点				検定試験の 概要			
備考	オンライン授業時は、PCとイヤホンを持参する						

授業科目	ネットビジネスⅡ	時間数 (コマ数)	30 (15)	単位数	2
担当教員 (資格等)	竹松 容子	時間割	時間割参照	開講期	後期
選択/必修	必修	講義/実習	講義	履修対象者 (学科・コース・学年)	ショッピングマスターコース 2年
授業科目の テーマと目的	ネット上に公開されているデータの収集方法や、キーワード分析、アクセス解析などデータを分析する技術を学習する。またその分析結果から、ターゲット層をWebサイトに誘導するために効果的なキーワードを選定したり、検索エンジンの検索結果上位に表示させるための記事の書き方などを学習する				
学習到達 目標	クライアントニーズを踏まえた上で、競合や市場の流れを分析するスキルとGoogleのWeb解析ツールの基礎的な活用方法を身につける				
担当教員の 授業に関わ る実務経験	☐ 有 ☒ 無	【実務経験内容】			
コマ割	授業科目の内容・具体的な授業計画及び進度				
1	eコマースについて	eコマース業界、ネットにお店を開く方法、売り上げについて			
2	ショッピングについて	特徴、集客・購入率向上			
3	ページ構成	ショッピングとストアのページ			
4～5	ストア作成	商品ページ作成、店舗管理			
6	カスタマイズ	ストアデザインと在庫の設定			
7	安心購入	関連法規、支払い方法、配送方法			
8	注文から出荷の流れ	受注内容の確認と配送、支払い方法の設定			
9	統計情報	ストアの分析と売上率アップの方針			
10	販促メール	ニュースレターの活用			
11	売上率アップとアクセス権	クーポン発行、アクセス制限設定			
12	マーケティング	コンセプト、ターゲット設定			
13	Webマーケティング	インターネット広告の特徴			
14	Webマーケティング	サーチエンジン、メール、コピーライティング			
15	まとめ	レポート・期末テスト			
使用テキスト 教材・教具					
参考図書 参考文献					
成績評価の 方法・基準	小テスト20%、レポート発表内容40%、期末テスト40%で評価する				
履修上の 留意点		検定試験の 概要			
備考					